

熊本県宇土市網津町旭方言の待遇表現

村上 敬一

I. はじめに

- 1) 調査対象地：宇土市は熊本県中西部に位置する。熊本市に南接し、北西を島原湾に臨む、天草諸島への玄関口にあたる。人口約3万5千人。近世は小西氏・細川氏の城下町で、キリシタン文化の中心地であった。最近では、熊本市のベッドタウンとして人口増加が続いている。市の中心をを国道3号線とJR鹿児島本線が南北に並走し、有明海沿いを東西に国道57号線とJR三角線が通る。温暖な気候に恵まれていて、網田地区では柑橘類やメロンの栽培、住吉・長浜地区では海苔、貝類の養殖が盛んである。
- 2) 調査年月日時：1997年3月9日（日）12時～16時
- 3) 話者：寺田ミエ子 1924年12月24日生 海苔行商、農業
- 4) 調査者：村上敬一 調査場所：話者宅
- 5) 調査方法・調査状況：調査票に従った面接調査を行なった。
- 6) 表記方法：用例は片仮名で表す。話者は無アクセントにつきアクセント符号は省略する。話者の内省は（ ）にくくり、筆者の記述には*を付す。

II. 調査結果

I. 尊敬表現

I-1 対者敬語

1. A「お前は」「元気かね」 アタワ ゲンキナ／アタワ ゲンキカイト
B「あなたは」「元気かね」 アタワ ゲンキカイト／アタワ オゲンキデスカ
C「あなたは」「元気かね」 アタワ オゲンキデスカ
2. A「あしたは家に居るか」 アシタ アタワ オルナ
B「あしたは家に居るか」 アシタ アタワ オンナハルカ
C「あしたは家に居られますか」 アシタ アタワ オンナハッデスカ
3. A「あした行くか」 アシタ イクカイト
B「あした行きますか」 アシタ イキナハルカイト
C「あした行きますか」 アシタ イキナハッデスカ／アシタ イキナハリマスカ
4. A「温泉に行かないか」 オンセンニ イクカイト／オンセンニ イカンカイト
B「温泉に行かれませんか」 オンセンニ イキナハッデスカ
C「温泉に行かれませんか」 オンセンニ イキナハリマスカ
5. A「しますか」 スルカイト／スルナ
B「されますか」 シナハルカ／シナハッデスカ
6. A「見ましたか」 ミタカイト

- B「見ましたか」 ミナハッタカ／ミナハッタカイタ
7. A「夕べは何時に寝ましたか」 ユーベ ナンジゴロ ネタカイタ
 B「夕べは何時に寝ましたか」 ユーベ ナンジゴロ ヤスミナハッタデスカ
 C「寝てください」 ヤスンデクダサイ
8. A「どこに行っているか」 ドケ イキヨットナ／ドケ イキヨットカイタ
 B「どこに行っていますか」 ドコニ イキヨンナハッデスカ
 C「どこに行っていますか」 ドコニ オイデマスカ
9. A「どうぞ食べてくれ」 タベンカイタ／タベテハイヨ
 B「どうぞ食べてください」 タベテ クダサイ
 C「どうぞ食べてください」 タベテ クダサイ
10. A「その写真を私に見せてくれないか」 シャシン ワタシモ ミセテハイヨ
 B「その写真を私に見せてくださいませんか」 ミセテクダサイ
 C「その写真を私に見せてくださいませんか」 ミセテクダサイ

1 - 2 第三者敬語

11. A「あしたは家に居るだろう」 アシタワ ウチ オンナハッドー
 B「あしたは家に居るだろう」 アシタワ ウチ オンナハッデショー
 C「あしたは家におられるでしょう」 アシタワ ウチ オンナサッデショー
12. A「居なかった」 オンナハラダッタ
 B「居なかった」 オンナハラダッタ
 C「居なかった」 オンナサラダッタ
13. A「そう言った」 ソギャン イーナハッタ
 B「そう言った」 ソー イーナハリマシタ
14. A「今そこに行っていた」 イマ ソケ イキヨラシタ
 B「今そこに行っておられた」 イマ ソケ イキヨンナハリマシタ
 C「今そこに行っておられた」 イマ ソコニ イキヨンナサッタデスヨ
15. A「友達がいる」 キトラスヨ／キトンナハルヨ
 B「来ている」 キトンナハリマスヨ
 C「来ている」 キトラレマスヨ
16. A「仕事をしている」 シゴト シヨラスヨ
 B「仕事をしている」 シゴト シヨンナハッデスヨ
17. A「見せてもらった」 ミセテモロタ
 B「見せてもらった」 ミセテヤラシタ
 C「見せてもらった」 ミセテヤンナハッタ
18. A「見せてくれた」 ミセテモロタ
 B「見せてくれた」 ミセテヤラシタ

- C「見せてくれた」 ミセテヤンナハッタ
19. A「私にくださった」 ワタシニ ヤンナハッタ
B「私にくださった」 ワタシニ ヤンナハリマシタ
20. A「いただいた」 モロタ
B「いただいた」 モロタ

II. 謙讓表現

II-1 謙讓表現

21. A「私も」 ワタシモ／オルモ
B「私も」 ワタシモ
C「私も」 ワタシモ
22. A「十分に食べました」 イッパイ イタダキマシタ
B「十分に食べました」 イッパイ オゴチソーニ ナリマシタ
23. A「持ちましょう」 モツテイッテアゲマス
B「持ちましょう」 モツテイッテアゲマス
24. A「待たせたね」 マチナンカッタナ *待ち長かったな
B「お待たせしました」 マチナンカッタデスナ *待ち長かったですな
C「お待たせしました」 オマタセシマシタ
25. A「駅で待っているよ」 エキデ マットルバイタ
B「駅で待っていますよ」 エキデ マットリマス
C「駅で待っていますよ」 エキデ オマチシテオリマス
26. A「言ってくれ」 ユートツテネ
B「言ってくれ」 ユートツテクダサイ
C「言ってくれ」 ユートツテクダサイ
27. A「これをやろう」 コルバ ヤロー
B「これをあげましょう」 コレバ アゲマシヨー
C「これをあげましょう」 コレバ アゲマシヨー

II-2 身内敬語

28. A「買ってやった」 コーチヤッタ
B「買ってやった」 コーテヤリマシタ
C「買ってやった」 コーテヤリマシタ
29. A「主人はもう帰っている」 カエッテキトリマス
B「主人はもう帰っています」 カエッテキトリマス

III. 丁寧表現

30. A「行くよ」 イクバイタ／イクバナ
B「行きます」 イクデス

31. A「寒いね」 サムカナ
 B「寒いね」 サムカデスナ
 C「寒いですね」 サムゴザイマスナ
32. A「居るよ」 オルバイタ
 B「居ます」 オルデスヨ
33. A「よかったねえ」 ヨカッタナー
 B「よかったですねえ」 ヨゴザイマシタナー
 C「よかったですねえ」 ヨロシューゴザイマスナー
34. A「そうか」 ソーナー
 B「そうですか」 ソーデスナー／ソギャンデスナー
 C「そうですか」 ソーデスナー／ソギャンデスモンナー

IV. 人間関係に応じた待遇表現

IV-1 特定表現の待遇表現

35. 「その角を曲がって右へ行くと～」 ソン カドバ ミギサン イテ
 36. 「とんでもない」 ナーンノ

IV-2 多人数場面の待遇表現

37. ワタシデ ヨカッタラ シマス／ワタシデ イーデスカ
38. コンドノ リョコーワ サンカシナハルヒトン スクナカゴタルケン ミナサン サ
 ンカシテモラワレンデショーカ
39. 1. お寺の住職さん オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ オデカケデスカ
 2. 校長先生 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ オイデマスカ
 3. 見知らぬ年配の男性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ オデカケデスカ
 4. 見知らぬ年配の女性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ オイデマスカ
 5. 顔見知りの年上の男性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ イクトナ
 6. 顔見知りの年上の女性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ イクカイタ
 7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性 (ものを言うことはない)
 8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性 (ものを言うことはない)
 9. 同級生の男性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドケ イクナ
 10. 同級生の女性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドケ イクカイタ
 11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドケ
 イクトネ
 12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性 オハヨーゴザイマス キョーワ ドコ
 オデカケデスカ
 13. 近所の中学生の男の子 オハヨー キョーワ ドケ イクトネ
 14. 近所の中学生の女の子 オハヨー キョーワ ドケ イクトネ

III. 総括（まとめ）

《1》尊敬表現（特に助動詞に注目して）

尊敬表現の助動詞は、敬意の高いものから低いものまで、その待遇価のレベルによって多彩な形式が使い分けられている。

もっとも敬意が高いのは「ナサル」（11C、14C など）であるが、使用される場面は限られている。「ナハル」の敬意も高く（2B、3C など）、同輩から親しい目上まで、広範に使用される。「ス・ら＋ス」はもっぱら第三者場面に使用される（14A、17B など）。話題の人物が目上であれば、軽卑語にも受け取られる。ところが、西へ1時間ほど行った天草地方では、面と向かった相手にも使用可能である。そのため、しばしばことばづかいのトラブルのもとになるそうである。さらに敬意の低い「ル・ら＋ル」形式は、第三者場面で話題の人物が目下や自分の子どものときに使用されるが、今回の調査では回答がなかった。調査者である孫に対しての、教育的配慮によるものと考えられる。

《2》謙譲表現

今回の調査にはみられなかったが、当該方言域にはいくつかの謙譲表現形式が存在する。【拝領する】に由来すると考えられる「ハイリョースル」は「いただく・ちょうだいする」の意で使用される。「アガル」は「行く・来る」の謙譲語で、「キョー オタクニ アガリマス」のように使用される。ただし、両形式とも、若年層では聞くことが稀である。

《3》丁寧表現

「デス」が動詞に下接して「イクデス」（30B）「オルデス」（32B）の形式となるのが特徴である。この他にも、「デス」は形容詞や進行態の動詞にも下接し、それぞれ「ヨカデス」（良いです）、「イキヨッデス」（行っています）のような形になる。

《4》文末助詞

「カイタ」（1A、8A など）「バイタ」（30A）などの形式が特徴的である。「カイタ」は問いかけの「カイ」に「あなた」の意の「アータ」が付加し、縮まったものと考えられる。「バイタ」も同様に、念押し「バイ」に「アータ」が付加し、縮まったものであろう。親しい同輩、目下の相手に現れる、親愛表現ともいえる形式である。

（むらかみ けいいち 大阪大学大学院）